

ゆりのきフェスタ2017

世代間交流事業である顔の見える絆づくり「ゆりのきフェスタ2017」が10月28日、萱田小学校体育館（バリアフリー対応）で開催された。八千代市社会福祉協議会の21番目の支会として、今年6月に発足した「ゆりのき支会」初の記念事業。



やちよマミーズプラス

業。服部八千代市長も挨拶に訪れた。「ゆりのきフェスタ2017」の開催目的は、地域の皆様にゆりのき支会の活動を知っていただくと共に、子どもからお年寄りまでが集い、文化・運動などを通して世代

を超えてふれあうことで、地域のネットワークが広がり、住民参加の地域福祉の発展を築くこと。

萱田小学校の体育館には、三〇人ほどの参加者が集った。65歳以上にはお弁当が出され、街づくり市民の会の源右衛門鍋「もちぶた炙りチャーシューバーッショントん汁」も振る舞われた。ふだん、なかなか外出する機会のないご老人にとっては、ハレ

の日のイベントとして意義あるものになった。ステージを飾ったエンターティナーは、八千代のイベントではすっかり人気定着してきたブラスバンド演奏の「やちよマミーズプラス」、地域に愛される部活動を目標にボランティア活動に力を入れる萱田中学校合唱部、ハーモニカの演奏で場を和ませる元萱田小学校校長の横尾邦光さん、そして、八千



横尾氏と萱田合唱部のコラボ

代市を中心に活動しながら、全国大会にも出場する津軽三味線の畠山光洋さんと豪華な顔ぶれ。演奏に合わせて、参加者も自然と口ずさみ、体育館が大ハーモニで一体化する。「お年寄りの知っている季節の歌を中心に選曲し

ました」というのは、萱田合唱部部長の中村友優（中2）さん。参加者からは「いろいろな出し物が観たし、ふだんしゃべれない人とも話ができて、楽しくすばらしいフェスタでした」と。一方で、ゆりのき支会の岩澤良隆会長は「ゆりのき台は、八千代市では比較的新しい街。ここに引っ越してきたみなさんに移住して良かったと言ってもらえれば、

借りた畑で30種類の野菜を栽培！

米本団地に住む本阿弥政史（ほんあみまさふみ）さんが、やちよ農業交流センターの体験農園（4m×10m）を借りて、30種類の野菜を栽培し収穫。特



本阿弥さんは、昨年八千代市農業ボランティア養成講座を1年間受講したことがきっかけで、今年は自分でも作ってみようと応募。5月に、小玉スイカの赤玉と黄玉を1本ずつ植え、夏には20個以上を収穫。8月は毎日スイカを食べていた

が食べきれず、カット冷凍してガリガリアイスにしたそうだ。また、サトイモから野菜のデザート『サトイモのきな粉餅&みたらし団子』も考案。育てる楽しみから食べる楽しさまで毎日をわくわくしながら暮らしている。

さらに、「農業交流センターで、種・苗・肥料・マルチ・支柱・ネット・ヒモ・農機具・水・トイレ・駐車場とほとんど準備してもらえると消毒もしてく



れます。また、4月から9月までは、毎月1回90分の講習後、農園で実習指導もあります」とセンター利用の便利さを強調する。

講師を務める交流センター事務長の澤田茂さんは、「植え付けまでの準備と栽培指導

や消毒は行いますが、種まき・植付けからの管理は体験者自らが行います。本阿弥さんは、ほぼ毎日の手入れにより雑草もなく、丁寧に管理していますので立派な野菜が食べきれないほど収穫できています」と説明する。



体験農園は、毎年3月1日（八千代市広報・農業交流センターホームページ）に年間使用料4万円で募集している。初心者歓迎のこと。

提携店のご紹介 『よもぎ蒸しと美的痩身エステ 月下美人』

プレミアム会員制度提携店のご紹介です。今月は『よもぎ蒸しと美的痩身エステ 月下美人』さんの情報をお届けします。

【住所】ゆりのき台5-18-6
【営業時間・定休日】11時～17時（時間外応相談）
毎週 水・日・祝日
☎ 047-494-1882

八千代中央駅から、ゆりのき通りをJ A八千代市方面に行く途中、左サイドに位置する。

店内に入ると、ディフューザーから溢れ出るアロマエッセンスの香りに迎えられる。韓国的美容法「コルギ」やよもぎを煎じて下半身を蒸し温める「よもぎ蒸し」とお薦めの美容法が顧客に満足感と幸せを届ける。

今月のお誕生日



今月のお誕生日は、高津団地在住Sさん宅の龍之助くん(5)です。おじいちゃんの作ったカップ巻きが大好きという龍之助くんは、他にも梨・柿・いちご

今月のヒロイン☆富永梨緒さん



日本新聞協会「第24回新聞配達に関するエッセーコンテスト」の小学生部門で優秀賞に輝いた富永梨緒さん。高津小学校5年生の梨緒さんは、千葉県で唯一の受賞者となりました。「ふだん読んでいた新聞に、自分のことが大きく取り上げられ、びっくりしました」と

くだものも好きです。ウルトラマンと怪獣のバトルごっこをして遊んでいますが、将来はウルトラマンレオになりたいという龍之助くん。なぜなら、あきらめない気持ちで悪者を倒し、みんなを助けるから。正義感の強い龍之助くん、お誕生日おめでとう。

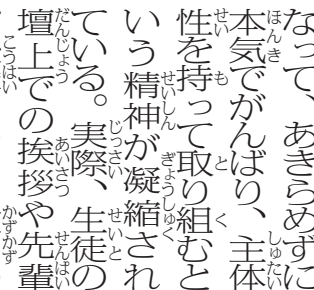
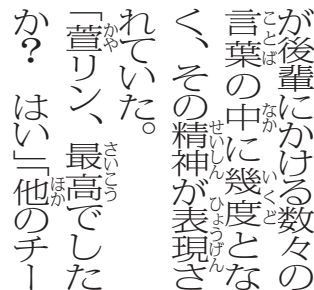


「少年野球教室」では、市内少年野球チームの小学5・6年生が、バッター・難波風さん、キャッチャー・里崎氏

の感想。新聞と家族の関わりと新聞配達員と梨緒さんの関わりを描いたエッセーには、心温まるものがあります。家庭科が好きな梨緒さんの特技は手芸。「ひいお祖母ちゃん、お母ちゃん、そしてお母さんも手芸が得意です」と手提げやエプロンなどの作品を見せてくれました。将来の夢は、得意な手芸でみんなを楽しませること。すでに、エッセーでもみんなを楽しませています。



は、「コースをついてきて、さすがプロだと思いました。それからキャッチングも想像以上にすごかったです」と興奮気味に話した。本日開催の少年野球教室に参加した子供たちの中から、将来プロ野球選手が誕生する日が訪れるかもしれない。



は、「コースをついてきて、さすがプロだと思いました。それからキャッチングも想像以上にすごかったです」と興奮気味に話した。本日開催の少年野球教室に参加した子供たちの中から、将来プロ野球選手が誕生する日が訪れるかもしれない。



「菅リン、最高でしたか? はい、他のチームも応援するなんていい学校だと思います」「一生の思い出になりました。幸せです」「真剣な顔で、一生懸命に頑張るのが一番いいと思います」など。

解団式では、3年生から1・2年生へ向けて「俺たち3年生みたいになりたいか?」の問いに對して「はい、なりたいですと返事。ここにフォロースhipからリーダーシップへの転換が先輩・後輩の中で自然と始まっていた。そして、生徒を代表して挨拶した宮崎夏帆さんは、「3年生のみなさん、かっこよかったです。リーダーの24人のみなさんに感謝しつつ、私たちも他人を尊重する風潮が浸透しているからこそ、感謝の言葉が飛び交う菅リンピックとなった。地域社会の代表格ともいえる中学生の成長により、地域の発展にもつながっていくと思う。」

が、最後に、嶺岸校長先生から、「これで、敵も味方もないノースайд。このすばらしい菅リンピックを作り上げた生徒諸君を誇りに思います。校長として感謝します」と。

元千葉ロッテ里崎氏が、八千代で少年野球教室を開催する。八千代市体育協会創立50周年記念および八千代市制施行50周年記念事業として、10月9日、元千葉ロッテマリンス捕手・里崎智也氏を招いて「スポート講演会」が行われた。(主催)市体育協会/共催)市文化・スポーツ振興財団)第1部は、八千代総合運動公園野球場で「少年野球教室」、第2部は、八千代市民会館大ホールで「スポーツ講演会」のプログラム。

菅リンピック。10月8日、菅リンピック(菅田中学校体育祭)が菅田中学校グラウンドで行われた。前日の降雨で順延となったこの日も、先生方が5時からグラウンドを整備して開催にこぎつけた。今回で第27回を迎えた菅リンピック。この名称は生徒の公募で決まったというが、第1回は全校生徒一六七名で開催(現在八九四名)。当時、実行委員を務めた現校長の嶺岸先生の記憶に残っている。

ムも応援するなんていい学校だと思います」「一生の思い出になりました。幸せです」「真剣な顔で、一生懸命に頑張るのが一番いいと思います」など。解団式では、3年生から1・2年生へ向けて「俺たち3年生みたいになりたいか?」の問いに對して「はい、なりたいですと返事。ここにフォロースhipからリーダーシップへの転換が先輩・後輩の中で自然と始まっていた。そして、生徒を代表して挨拶した宮崎夏帆さんは、「3年生のみなさん、かっこよかったです。リーダーの24人のみなさんに感謝しつつ、私たちも他人を尊重する風潮が浸透しているからこそ、感謝の言葉が飛び交う菅リンピックとなった。地域社会の代表格ともいえる中学生の成長により、地域の発展にもつながっていくと思う。」

が、最後に、嶺岸校長先生から、「これで、敵も味方もないノースайд。このすばらしい菅リンピックを作り上げた生徒諸君を誇りに思います。校長として感謝します」と。